

—被服領域理解における上位群と下位群との比較—

○武川素子 笠井直美 大澤清二(大妻女大)

【目的】技能構造についてはスポーツや技能訓練の分野において様々な研究がなされている。しかし生活技能という視点から技能構造を扱った報告は少ない。そこで本研究では家庭科で扱う生活技能、特に被服分野に関する製作経験や知識、製作の基本技能の関係を明かにすることを目的とした。

前報では被服製作経験の実態、技能の自己評価、家庭科被服領域内容の理解度をとり上げ検討を行った。その結果、被服製作は学校に依存する部分が多いこと、被服領域内容の理解は被服製作区分で低く、男女差の大きいことが明らかになった。

本報では内容理解度の高い上位群と低い下位群の比較、被服領域内容項目間の関係などについて検討を行った。

【方法】埼玉県内の高校生徒579名(男子261名、女子318名)を対象として平成7年2月に質問紙調査を行った。

調査項目は小学校「家庭科」被服領域内容(被服製作、着装、手入れ)に関する項目である。

【結果】以下の結果が明らかになった。

- ・下位群では、上位群と比較して特に被服製作区分の項目での理解度が低くなっている。
- ・内容区分および一連の行動・作業に結び付く項目間での相関関係が認められた。